

プレスリリース

2019年1月15日、ヴェヴェー発



ネスレ、プラスチック廃棄物への取り組みを加速

ネスレは、本日、廃棄物のない未来に向けたより広いビジョンを打ち出し、特にプラスチック廃棄物を発生させないことに焦点を合わせ、2025年までに包装の100%をリサイクル可能または再使用可能にするという、2018年4月に掲げた[コミットメント](#)の達成に向け、一連の具体的な行動を発表しました。

ネスレ CEO マーク・シュナイダーは、次のように述べています。

「私たちのさらに広いビジョンと行動計画では、プラスチック包装廃棄物問題への取り組みに対するネスレの取り組みと具体的なアプローチの概要が示されています。

可能な限りリサイクルするという選択肢の探求をコミットしていますが、プラスチック廃棄物の課題に立ち向かうためには、パッケージを100%リサイクル可能にするだけでは不十分であることを認識しています。私たちは、その境界線を、さらに押し広げ行動していく必要があります。この複雑な課題を解決するために、あらゆる選択肢を検討し、現時点で効果の望める、複数の解決策を採用することを決定しています。特にリサイクルのインフラが存在しない地域での、リサイクルできる堆肥化可能な紙ベースの材料と生分解性ポリマーの有意性を信じています。

共同の取り組みが非常に重要ですので、私たちは消費者、ビジネスパートナー、そしてネスレの社員一人ひとりが、自らの役割を果たすように働きかけています。

この分野のリーダーとしての私たちに、ぜひご期待ください！」。

プラスチック汚染の多面的な課題に取り組むには、全体像の見極めと、取り組みをうまく結集することが不可欠です。この目的の実現化には、具体的な行動が必要です。このアプローチに沿って、ネスレは本日、代替材料を開拓し、廃棄物のない未来を形作り、行動変化の促進につながる具体的なステップを発表しました。

先駆的な代替材料

2018年12月、ネスレは、持続可能なあらゆる包装材料の評価と開発、産業界のパートナーとの協力による新しい包装材料やソリューションの開発などに特化する、[パッケージング研究所 \(Nestlé Institute of Packaging Sciences\)](#) 設立を発表しました。

2020年から2025年の間に、ネスレは世界中のネスレ製品において、[リサイクル不可もしくは、リサイクルが難しいすべてのプラスチック](#)を廃止します。そのために、ネスレはグローバルな製品ポートフォリオ全体にわたり代替包装材料を展開しており、最先端の包装専門家とのパートナーシップも確立しています。

- 2019年2月からは、ネスレ製品から、全プラスチックストローを排除し始め、紙などの代替材料だけではなく、廃棄物を減らす革新的なデザインを適用します。
- ネスレはまた、2019年第1四半期から「ネスクイック」製品で、2019年第2四半期からは Yes! ブランドのスナックバーで、紙包装の展開を開始します。Smarties は 2019年にプラスチックを含まない包装の展開を開始し、「ミロ」は紙ベースのパウチ製品を 2020年に発売します。
- ネスレ ウォーターズは、そのボトルの再生 PET 含有量を 2025年までに世界レベルで 35%まで増加させ、米国では、象徴的なブランドである Poland Spring に焦点を当てて、50%にまで達する見込みです。さらに、ネスレウォーターズは、欧州ブランドの Acqua Panna, Buxton, Henniez そして Levissima のリサイクル PET 含有量を 2025年までに 50%まで増加させる予定です。
- リサイクルを成功させるには、十分な社会インフラが必要ですが、現時点では、適切な状態ではないところもあります。パッケージング研究所では、たくさんの選択肢の中から、リサイクル可能な新しい紙ベースの材料と生分解性/堆肥化可能なポリマーの研究に力をいれています。リサイクルインフラがまだなく、またしばらくの間で見込みのない地域において、これは価値ある選択肢となり得る可能性があります。
- ネスレは外部のパートナーとも協力体制を整えています。Danimer Scientific 社と世界規模のパートナーシップを結び、ウォーター事業用の海洋生分解性およびリサイクル可能ボトルを開発しました。ジョージア州ベインブリッジに拠点を置く Danimer Scientific 社は、より持続可能なプラスチック製品を、より自然に近い形で製造するための方策を生み出すパイオニアです。
- さらに、ネスレは、食品に使用可能なリサイクルポリプロピレン (PP) を製造するために、PureCycle Technologies との共同研究を開始しました。PureCycle Technologies は、プラスチック廃棄物原料から色、におい、および混入物質を除去してそれを新品のような樹脂に変えることができる画期的なリサイクル技術を商品化しています。ポリプロピレンは、食品を包装するためのトレイ、容器、カップ、ボトルに一般的に使用されているポリマーです。

廃棄物のない未来の形成

2025年のコミットメント達成にとどまらず、ネスレは、世界中の事業を通じてプラスチックの環境への漏出を阻止するという長期的な目標を持っています。これは、自然界でのプラスチックのさらなる蓄積を避け、プラスチックの(環境に対する)中立性を確保することにつながります。

海洋のプラスチック廃棄物は、インドネシアや他の東南アジア諸国にとって大きな脅威となっています。ネスレは、2017年にインドネシアで設立されたプロジェクト STOP に賛同した最初の食品会社となりました。プロジェクト STOP は、東南アジアの都市や政府とのパートナーシップを発展させ、プラスチックの海への漏出を防ぐ主導的な取り組みです。プロジェクト STOP は、廃棄物からできるだけ多くの価値を引き出す、持続可能かつ循環型で低コストの廃棄物システムを生み出しています。それは、インドネシアの沿岸地域における、既存の多くの地元のイニシアチブと非公式の廃棄物回収者を支援します。今後数カ月かけて、私たちはこのプロジェクトから学んだことを他の国々で展開し、それらの市場で「プラスチックの中立性」を実現しようとしています。

詳細は、ネスレから追ってお知らせします。

行動変革を先導

プラスチック廃棄物の課題に取り組むには、私たち一人ひとりの行動を変える必要があります。ネスレは、持続的で影響力のある変革を主導することを約束します。それには、ネスレの社内からスタートすることが一番の得策です。

- 世界の 4,200 のすべてのネスレの事業所では、リサイクルできない使い捨てのプラスチック製品を排除することを約束します。これらの品目は、簡単にリサイクルまたは再利用できる材料に置き換えられます。PET やアルミニウムなどのリサイクル可能な材料については、消費され、またリサイクルへの取り組みが十分に認知されている地域で、適切な回収処理の方策がとられることを確実にします。
- 2019年6月8日の世界海洋デーでは、世界中のあらゆる場所にいる、ネスレの全社員がボランティア活動として、一日を費やしてごみの除去や清掃のボランティア活動に参加します。その先駆けとして、2019年5月、スイスで、ネスレのエグゼクティブボードメンバーとグローバル本社の社員がボランティアでジュネーブ湖畔の清掃を行います。

プラスチック廃棄物の課題に対応し、事業活動における環境への影響をゼロにすることを目指すことは、株主と社会に共通価値を創造するというネスレのコミットメントの不可欠な部分です。ネスレは、プラスチック廃棄物問題への取り組みを加速させること、進捗状況を公に報告することに特に尽力しています。

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

報道関係者の皆様

Christoph Meier

Tel.: +41 21 924 2200